7

発展する科学技

なっている。 かったことが、 の時代には想像もつかな わりに仕事をする。昭和 載したロボットが人の代 覚ましいものであった。 平成の時代においても目 ンを持ち、人工知能を搭 る科学技術。その発展は 一、我々はスマートフォ 絶え間なく進歩を続け 現実に

帯域の制限をなくした。 ネットは距離を克服し、 の登場である。インター るのは、インターネット なかでも平成を象徴す ため、サービスはテー 業を中心とする第二次産 ラーメイド化していっ る第三次産業ではグーグ り、サービス業が主であ 業はより厳しい時代とな てサービスや情報を提供 集められるようになった 上がりを見せている。 係の企業が生まれ、盛り ルやフェイスブックなど 新たなインターネット関 さらにビッグデータを 個人の嗜好に合わせ

も変化が生まれた。製造 これによって産業構造に 忘れてはならない。 なったのだ。このように できると同時に、生産 部分も多くある一方で、 発展によって恩恵を得る を宣伝することが可能に ントに効果的に商品など 動など、全てがデータと 検索履歴や個人情報、行 して見られていることを 者側も消費者にピンポイ インターネットの登場・ る。

ジレンマが発生してい い、イノベーションの 科学技術の発展に伴 自動運転技術を導入

100分の1、1000 しかし、自動運転技術を 分の1に減ると言われ することによって事故は | 歩は問題もはらんでい すべきか、ジレンマが発 生しているのである。 は100倍、1000倍 導入した場合に比べれ 際の責任の所在が定まら 科学技術に対し人はどう ないといった理由から導 危険ということになる。 人はなかなか進まない。 たしかに科学技術の進 導入していない社会 一方で事故が起きた る。しかし、「だからと らは科学技術の進歩の表かったといわれる。これ としては莫大な損失を被 る」と慶大理工学部教授 アバッグのおかげで助 に、13万人がタカタのエ が死亡した。それと同時 グ事故でこれまでに13人 語る。タカタのエアバッ 長でもある山中直明氏は 技術研究センターの副所 であり慶應義塾先端科学 言って技術を拒むと社会 裏である。 真実はどこに

> ばならないという。 あるのかを見極めなけれ 、間の仕事が奪われると 八工知能についても、

ない。 され心配しすぎる必要は 摂理だ。安易に情報に流 必要な労働力は減少し ザーが掘るようになり、 でも、人間が工具で掘っ そのようなことはないと のであり、それは自然の た。徐々に変わっていく ていたところをブルドー 山中教授は言う。これま いわれているが、当分は

その中でどう生きるか

学技術。 もに生きていくのだ。 しっかりと向き合い、 に飲まれてはならない。 急速な進歩を遂げる科 私たちはそれ

(井上知秋)